



町のわだい

今月の題字 福館 颯弥さん（船越小4年）



鯨館の企画展に1,000人 捕鯨文化やクジラの生態学ぶ

「クジラ文化を学ぼう」と題した企画展が、11月6日から30日まで鯨と海の科学館で行われました。期間中には約1,000人が会場を訪れ、クジラの生態研究の事例や捕鯨文化を紹介する展示用パネルに足を止め見入っていました。27日には日本鯨類研究所の安永玄太さんが「クジラのエサとひとのごはん」と題し講演し、クジラの食べ物や人間との共通点などをスライドと骨格標本を使い解説。参加した親子連れらは、クジラが1日に食べる量がイワシに例えると40万匹になることや骨の数が人間と同じであることなど、数々の興味深い話に聞き入っていました。

3年ぶりの「山田のはしご酒」に160人 仲間とユニークさとお得感楽しむ

3年ぶりとなる「山田のはしご酒」(町商工会青年部主催)が12月1日、町内29の飲食店を会場に開かれました。指定された3店舗と希望する1店舗をはしごして回ってもらうこのイベントには町内外から約160人が参加し、仲間と一緒にユニークさとお得感を楽しんでいました。町まちなか交流センターで行われた開会式では、カップルに扮した同部員の佐々克考さんと間瀬慶蔵さんが「我々のんべえ一同は、飲酒運転は絶対にしません」と宮古警察署山田交番の住吉正幸所長に「選酒宣誓」。これを合図に参加者らは夜の飲食店街へと繰り出していました。



山田中1年生が「豆すつとぎ」作り 郷土食の文化と味に触れる

12月14日から16日にかけて、山田中学校（佐々木秀毅校長・生徒318人）の1年生90人は町の郷土食として伝わる「豆すつとぎ」の調理体験に取り組みました。郷土食の味に触れ、その良さを伝承していこうと行われたもので、生徒らは荒川農産物加工組合の佐藤ミノリ組合長と斎藤みつ子さんから由来などの説明を聞いた後、指導に当たる組合員から材料の青大豆のつぶし方から棒状に形作るまでの工程を学びました。佐々木陽飛君は「最後に形を整えるのが難しかったです、家でも作ってみたいです」とおいしそうに完成品を頬張っていました。